

# 令和4年度 第1回 土岐川庄内川流域委員会

## 議事要旨

日時：令和4年7月22日（金）14:00～16:30

場所：現地、ウインクあいち 10階 1002室

### 1. 開会

### 2. 挨拶

### 3. 現地視察・動画視察

（特定構造物改築事業）

- ・粘り強い河川堤防について、整備にあたり法面の整形などをおこなっているのか。現場で不陸があったが整正をしていないのか。

→堤防が決壊するまでの時間を長くするため、粘り強い河川堤防として布製型枠を施工している。布製型枠は、現地の地形に応じて設置できる特徴があり、法面の整形を行わなくても、施工目的を達成できるため、不陸整正をせずに施工している。今後、劣化等が発見された場合、現地の確認をしながら適切な管理を行う。

- ・布製型枠において浸透や吸出し等の効果を見込んでいるか。

→洪水越流時の補強を目的として布製型枠を設置しており、効果としては吸出し防止効果もあると思われる。

- ・布製型枠には透水性があるということだが、河川水の浸透を防ぐべき川表側にも施工しているのはなぜか？

→布製型枠は浸透性を有しているが、施工にあたり型枠内にモルタルを注入することにより、コンクリート体となっていることから、河川水が堤体内に浸透することはない。

- ・右岸側の布製型枠は、今後、完成堤防に向けて盛土をするときどうするのか。

→完成堤防に向けて盛土する際は、布製型枠を撤去し、新たに堤防の盛土を行う。

- ・粘り強い河川堤防の施工年はいつか。

→令和元年から令和2年にかけて施工している。

- ・特定構造物改築事業における引堤はどのくらいか。

→事業区間における引堤幅は最大で40m程度である。

- ・今までフロンティア堤防やアーマーレビー工法、耐越水堤防と呼ばれていたが、流域住民へ分かりやすいということで、粘り強い河川堤防という表現で統一されているということか。

→平成の初期には、耐越水性のある堤防としてフロンティア堤防と呼ばれた堤防が整備されていたことがあった。耐越水性のある堤防整備について、近年は「粘り強い河川堤防」という名称を用いていることが多い。

(多治見かわまちづくり(上流区間))

- ・多治見かわまちづくりに関して、老人ホームの近くで違法駐車、ごみ放置、夜間騒音が懸念されることから利用制限を検討すべき。

→今後、多治見市かわまちづくり協議会の専門部会を設置し、そちらで検討していきたいと考えている。

- ・散策路等の整備のほか、防災ステーションや資材置き場といったものはつukらないのか。

→多治見市内では平和町防災拠点を整備している。

- ・整備後のメンテナンスが課題と思われるため、誰がどのように行うのか検討しておくべき。

→今後、多治見市かわまちづくり協議会の専門部会を設置し、そちらで検討していきたいと考えている。

- ・多目的広場を予定しているところは、出水でよく浸水する箇所であるが、問題ないか。

→出水時の利用についても、前出の専門部会の中で検討をしていきたいと考えている。

- ・多目的広場で川の学習をする機会を国土交通省において作っていただきたい。

→地元団体などにもご協力いただきながらの開催を検討していきたいと考えている。

- ・本事業の計画以前から、地元の機運は高かったのか。

→本事業の下流側で、かわまちづくりとして遊歩道の整備等を行っており、地元からは上流側の整備の要望があるなど、機運は高まっていた。

#### 4. 議題

##### ■ 1) 土岐川庄内川流域委員会規約（改訂案）の確認

頂いたご意見と事務局回答

- ・土岐川庄内川流域委員会規約改訂について承認された。

##### ■ 2) 前回までの委員会における主な指摘事項とその対応

頂いたご意見と事務局回答

- ・出水前後の植生の変化がわかる資料があれば提供いただきたい。  
→植生調査については、河川水辺の国勢調査により 5 年に 1 回の植生図作成のための植物群落の調査、10 年に 1 回の個別の種を確認する調査を実施している。出水前後で植生調査を実施していないが、今後そうした観点でも調査を検討したいと考えている。
- ・6 時間先の洪水予測の精度はどの程度か。  
→令和 3 年 8 月出水を対象に予測水位の精度を検証している。本出水では水防団待機水位超過時において予測水位が過小な予測となっている。この出水の予測雨量の精度を確認すると、水防団待機水位を超過した時間帯において予測雨量が実績雨量と比較して過小な予測となっており、このことが予測水位に影響したものと考えられる。しかし、実績雨量を用いた予測計算では実績水位とほぼ合致しており、現在のシステムに実装している予測モデルは高い精度を有している。
- ・住民の避難について、夜間や豪雨時には、避難の判断が難しいのではないかと。6 時間先の洪水予測の精度が高くなれば、安全な時間帯を選んで避難できると思われる。  
→今後、一級水系では国と都道府県の管理区間が一体となった洪水予測に推進するなど、さらなる精度向上や長時間化に向けて取り組む。
- ・水位予測については、具体的に、何時間先の情報が重要と考えているか。

- 早期の避難を促すため、自治体に向けて6時間先まで提供しているが、今後精度向上や長時間化に向けて取り組む予定である。
- ・水位予測について、予測雨量では、気象庁のCバンドと国土交通省のXバンドが使われている降水ナウキャストが使用されているが、観測雨量では、国土交通省が観測しているXバンドを使用しないのはなぜか。庄内川は、局地豪雨が効く中規模の河川であり、これを捕えようとしているXバンドこそ活用すべき。
- 次回以降提示する。
- ・水位予測について、予測精度の向上は具体的にどのようなことを取り組んでいるのか。雨量予測の精度向上に向けた取り組みは考えていないのか。
- 高度化に向けての検討は、庄内川に流入する支川からの流入量を見込んだ流出モデルの改良を検討している。雨量予測の取り組みについては、関係機関へも確認し、次回以降提示する。
- ・庄内川の河口部で発見された不発弾の除去作業について、状況報告していただきたい。
- 発見された不発弾2発は、5月～6月に無事処理が完了した。今後、不発弾除去作業に設置していた仮設工を撤去し、しゅんせつ工事を再開する予定である。
- ・河川環境調査の中長期的な変化について、種数が増加している要因はどのように考えているか。
- 種数の増加については、下水道の整備が進んだことや工場排水等の排水基準が強化されたことにより、水質環境が向上したことが要因と考えている。水質データについては、次回以降提示する。

### ■ 3) 令和3年8月出水の状況

#### 頂いたご意見と事務局回答

- ・枇杷島地区狭窄部対策の効果量について、東海豪雨と同規模の洪水に対する効果に関して、「これまでの事業と合わせて」とはどういう意味か。
- これまでの事業とは、東海豪雨以降に実施した河川激甚災害対策特別緊急事業や河川整備計画に基づく改修事業を指している。

- ・洪水時の情報発信において、予測の情報は使用していないのか。本資料ではそうした記載がないので追加すべき。
- 洪水予報発表の際に、自治体等に対して、6時間先の水位予測情報も含めて提供をしている。資料について次回以降提示する。
- ・庄内川流域全体に対して小里川ダムの効果を上げるために、小里川ダムをさらに有効に活用する方策を考えているか。また小里川ダムの計画論や操作について、丁寧に説明頂きたい。
- 次回以降提示する。

■ 4) 当面の予定

- ・事業再評価にあたっては、どのような考え方で評価するのか、やり方がわかるように丁寧に説明して頂きたい。

5. 閉会